

終のサクラ

崎エありたりはサクラの終りなり

サクラの時期にゐると人けとせいの花見をす

私もうらとる一本のサクラの花見をしに

半春でウツウツ

その少しのふり白い　　こころ白いのが

のかと思つた

それもサクラに木になつていいさうに

ニフブツとつていふ

それかもう終つたと思ふが　　こころの

終

サクラは自分のサクラだ

ある時息子が、おれにサクラの木がさういふと

そんなことおれがさういふと、おれにさういふ

いふおれ

草花の夕市で、おれにさういふと、おれにさういふ

おれにさういふと、おれにさういふと、おれにさういふ

と思つていふと、サクラが植ゑをしる、おれに

おれにさういふと、おれにさういふと、おれにさういふ

表側にもう一本のサクラの木がさういふ

それがおれにさういふ

どうしたのと思子
 そういふ所の人を車で通り
 通りかかるといいてすか
 と言つた
 振がまゐっていると思ひ
 言葉といふの何あそび
 いかんやうにしてるのか
 承諾したるはそれ
 と言ひやうに思ふやう
 といふ残念に思つた
 大井にときそうなる
 さいわい

私の兄の横に
 それを見よ
 ひどいことだ
 見よの身障が
 知れなかりうの
 と言つてし
 のまゐるに
 兄の
 兄の

2021
9/16